

FASID NGO セミナー伊勢崎賢治氏 講演
「平和構築と NGO」 報告

2005 年 9 月 29 日(木)10:30~12:00
於:一橋記念講堂

1. セミナー概要

FASID は、9 月 29 日(木)、一橋記念講堂にて「平和構築と NGO」というセミナーを開催した。講師として伊勢崎賢治教授(立教大学大学院)をお招きし、約 1 時間の講演と活発な質疑応答が展開された。伊勢崎氏は、国連平和維持活動(PKO)に従事し、国連東チモール暫定統治機構で県知事、国連シェラレオーネ派遣団で武装解除統括部長を歴任、さらに日本政府特別顧問としてアフガニスタンにおける武装解除に従事した経験をお持ちである。セミナーには NGO 関係者をはじめ、大学関係者、開発コンサルタント、メディア、官庁等から 200 人近くの聴衆が参加した。

講師は、NGO が紛争に外部から関与する場合に関して、具体的かつ多様な論点を提示した。まず、紛争前、紛争中、紛争後の各段階において、安全保障、法と秩序、武装といった視点から、NGO が関ることのできる活動を整理した。さらに、講師本人が経験した、シェラレオーネ、東チモール、アフガニスタンの事例を活用しながら、NGO による平和維持活動についての重要な指摘や問題提起が行われた。

2. NGO の役割

論点のひとつは、国家安全保障における NGO の責任についてであった。紛争後に支援国によって創設された国防軍が展開する際、軍の肥大化は経済疲弊の根源となる可能性をもち、過度の軍事化は人権問題を引き起こしかねない。それら軍の動きに対する警告や査定などの“Fungibility Watch” が、NGO の重要な役割であることを指摘した。また、NGO は無償援助を基本とするが、紛争後の復興支援の心構えとして、「紛争の当事者の自立を目指す」ことを念頭におきながら活動すべき点が主張された。

3. 平和と正義

さらに、セミナーの随所にわたり「平和か正義か？」という重要な問題提起がなされた。これは、紛争後に紛争の犯罪人が法によって裁かれることなく、表面上の平和を受け入れるのか、あるいは「正義無き和解はない」と、あくまで法による裁きを求めるのか、という問題意識である。平和と正義は両立できるのか、またそのバランスを決定する政府の存在を前に、NGO はいかに中立性を保つのか、という大きな課題を浮き彫りにした。

4. NGO の安全確保

平和構築に係る NGO の最たる問題として、「どのように身を守るか？」という問題提起がなされた。例えば、Military Threat Indicator を考慮した上で危険度を感知し、行動計画に結び付けることが重要である、というひとつの解決策が提示された。また、紛争処理の現場では、NGO の情報源として「軍」が貴重な存在であり、「NGO として「軍」とどう対峙するか？」という避けられない問題があることも指摘された。いずれも、現場での活動で直面するであろう重大な視点である。

5. おわりに

NGO そのものに焦点をあてるに留まらず、国連による紛争処理への対応や日本政府の平和維持活動の問題点など幅広く言及があった。全体を通じて多くの写真を活用したプレゼンテーションであり、現場の知見が豊富に盛り込まれた説得的かつ迫力ある内容であった。平和構築の現場で活躍する NGO はもとより、その他の聴衆にとっても大変有意義なセミナーであったといえよう。

(了)